

特集

郷土の偉人が文学界・演劇界に残した偉業とは

孤高の人「坪内逍遙」

今から、70年前の昭和10年（1935）2月28日、日本の近代文学黎明（れいめい）と近代演劇の興隆に、その生涯をささげた文学者が、愛する家族に見守られ、静かに息を引き取りました。

その文学者は、美濃加茂市太田本町出身の坪内逍遙。逍遙が亡くなって今年で70年。

晩年、逍遙は、生まれ育ったふるさと思いをはせ、二度太田を訪れ、ゆかりのあった人たちと旧交を温めています。

今月は、みのかも文化の森で、「情熱の人・坪内逍遙」展（2月5日から3月21日）が、開催されるのに伴い、彼の偉業と足跡をたどってみました。



左写真は、大正8年（1919）5月再訪の際、虚空蔵堂前にて撮影。左は、妻セン。
撮影者は、鈴木写真館 鈴木清次郎